

## 第4回(仮称)草津市立プール整備基本計画検討懇話会 会議録

### ■日時：

平成30年8月29日(水)10時00分～11時30分

### ■場所：

草津市役所 2階特大会議室

### ■出席委員：

伊勢坊委員、岡本委員(会長)、小川委員、嘉悦委員、小林委員(副会長)、阪下委員、澤委員、杉江委員、中野委員、馬場委員、松村委員、村井委員、山本(雅)委員、山本(容)委員、横山委員

### ■欠席委員：

なし

### ■事務局：

草津市建設部 吉川部長、寺田副部長

(プール整備事業推進室)

生田室長、杉田参事、力石専門員、島川係長、三田村副係長

(オブザーバー)

滋賀県県民生活部スポーツ局 辻副局長、矢野主任主事

(基本計画策定業務受託者)

株式会社 梓設計関西支社 外山氏、中川氏

### ■傍聴者：

13名

## 1. 開会

---

○草津市建設部 吉川部長 挨拶

## 2. 協議

---

### (1) 第3回懇話会の主な意見と市の考え方について(資料1)

#### ○事務局

<資料1について説明>

#### ●会長

- ・観客席数の2500席の考え方について、これは飛込用(25m)プールを含めたものか。それとも競泳用(50m)プールのみで2500席ということか。

○事務局

- ・2500席については、飛込用と競泳用すべてを含んだ席数と考えている。

●委員

- ・国体開催基準によると、競泳プールにおける観客席2500席ということになっており、国体開催にはベストかと思うが、場所的な問題もあるので、今後、日本スポーツ協会と協議していただく必要がある。基本的には、国体開催の競泳50mプールは観客席2500席というのが基準となっている。

●委員

- ・駐車場200台とあるが、有料でお考えなのか。

○事務局

- ・現時点で、有料か無料かは検討中である。

●委員

- ・プールの駐車場の位置について、体育館、グラウンドの方に変えていただくと、体育館、グラウンド、プールを一体的に利用することが可能になるのではないかと。

○事務局

- ・資料2の「周辺環境」において、「プール整備計画地」と囲んでいる右側の空地になっているところに駐車場を計画しているが、計画地と駐車場を逆に配置したらどうかというご意見をいただいた。これについては、計画地の前面に通る都市計画道路大江霊仙寺線から進入すると、渋滞が起こってしまう可能性がある。また、計画地よりも駐車場の敷地の方が狭いことから、プールの施設自体が納まるかどうかという物理的な問題が出てくる。さらに、駐車場の北側に宅地があるため、日影等を考えると駐車場側に高い建物を建てることは難しい。これらのことから、現在の計画地の状態で、駐車場を道路側にするというのは課題が多いと考えている。

●委員

- ・逆に道路からの出入りがしやすい場所であれば、体育館、グラウンドからも利用できる。そういう場所を考えると、こちらの方が有効ではないかという考えである。

●会長

- ・今後の課題ということで整理させていただく。

(2) (仮称) 草津市立プール整備基本計画(骨子案)について (資料2、3)

○事務局

<資料2、3について説明>

## ●会長

- ・プールの水深を3mにすることで提案があったが、3mにすることによって費用も掛かってくる。費用が掛かる以上にどういったメリットがあるかを確認する必要がある。競技力向上という視点と健康スポーツという視点があるが、健康スポーツという視点では3mはあまり必要ないとも考えられる。競技力という視点でなぜ水深3mが必要なのか、どういったメリットがあるのか、お伺いしたい。

## ●委員

- ・水泳競技は、競泳、水球、アーティスティックスイミング、オープンウォータースイミング、滋賀県では馴染みがないが日本泳法、これだけの種類を実施している。
- ・競泳については、水深が深い方が、記録が出やすいと言われている。今は水深2mが最低基準になっているが、今後は基準水深が深くなっていく可能性がある。また、記録の出やすいプールで泳ぎたいという選手がかなり増えてきており、大会招致等の面から、3mは有意義になっていくのではないかと考えている。
- ・水球については、規則上水深2mとなっているが、近年は選手の体格が大きくなってきて、2mでは足が着いてしまう選手が出てきている。水球委員会の方から、水球の大会は最低2.5m欲しいという要望が出ている。2.5mより3mにさせていただく方が大会に集中しやすく、練習でも選手の強化においても3mプールの方が有利になると考える。
- ・アーティスティックスイミングについては、規則上水深3m、その範囲は12m角となっているが、リフトやジャンプをすることが主流になってきているため、2mでは足がついてしまう。そういう試技が主流になってきているので、規則上、水深3mは12m角あれば良いとされているが、プールのどこでも行えるようにすべてを3mとしなければ、大会の招致が難しい。また、プールを分割した場合でも水深3mで練習できれば、競技力向上にも資するのではないかと考える。
- ・日本泳法については、2mで十分かと思うが、潜水もあるので深いプールでする事にも意義があるのではないかと考える。
- ・オープンウォータースイミングは、海や湖、川、沼で行われる競技であるが、雨天、荒天時にはプールで行うことになり、当然、絶対に足のつかないプールでやる必要がある。3mというのは大変有意義なことと考える。
- ・研究結果によると、水深3mあれば飛込時における事故は起こらない安全水深であると言われている。競技者の利用、市民スポーツにおいて安全を確保できるよう、ぜひ3mの水深を確保していただきたい。

## ●会長

- ・学校指導では飛込みをやっていないが、中学、高校の競泳の大会では飛込みがあるので、どこかで練習をしなければならない。水深3mを取っておくと怪我のリスク軽減につながる。また、競泳の場合、選手がスタート時に一斉に飛び込むと、かなり波が立って水底に当たり、それが跳ね返ることでタイムが悪くなるケースもある。3mにすると飛び込んだ時の波の影響が非常に少ないということもある。
- ・大学生の場合、水深の深いプールがなく、水球の試合で2mあるいはそれ以下のところで試合をしているケースがある。水深が低いと足を底に打ち付けて捻挫をしてしまうというケースもかな

り出ている。3mあることによって水球の選手たちも怪我を防ぐことができる。今回、水深 3m を提案していただいていることは、草津で全国大会、世界大会を開催できるというメリットにもつながってくると思う。

- ・飛込プールは、一日中スイミング選手が利用するわけではないと思うが、ここが健康スポーツの方でも使っていくような準備をされるのか。例えばコースを区切ってウォーキングをするようなことも考えられているのか。

#### ○事務局

- ・飛込プールは、25mプール兼用になる。水深は、飛込競技に対応できるよう 5m とするが、可動床を設置することで、一般の方も健康スポーツ等で利用していただくといった用途も検討している。

#### ●委員

- ・障害のある方、高齢者の方、ベビーカーを押して来られる方も利用しやすいような施設の動線、通路や更衣室の広さが必要である。また、エレベーターの設置が難しいのであれば、スロープでの障害者も動線も考えていただければありがたい。

#### ●会長

- ・障害者スポーツにおいても大きな大会が誘致できるような施設にしてもらいたい。特に健常者が歩行する場合と車イスが歩行する場合は変わってくるので、そういった観点でも協議をしていただきたい。
- ・新たなにぎわいを作っていくということで、プール横の草津川跡地区間 4 の整備について、今後、どのように進めていかれるのかお伺いしたい。

#### ○事務局

- ・JR 草津駅のところ草津川跡地区間 5 に「de 愛ひろば」という公園がある。また、新体育館の整備を進めており、来年初夏に供用開始を予定している。それに合わせてプールができるということで、中心市街地の「de 愛ひろば」や駅周辺の回遊性を高めるため、公園や遊歩道等を順次整備していくことを考えている。体育館やプールには、多くの方が公共交通機関で来られるため、街路だけではなく遊歩道も歩いていただき、施設や店舗に寄っていただくということも考えていきたい。

#### ●委員

- ・プール計画地の横の県道整備という問題がある。現状、プール計画地の地面の高さと横を走っている県道の高さがかなり違い、県道から斜めにUターンしなければならない状況で、交通アクセスが非常に悪い。道路整備も一体的に進めていただき、プール完成時には県道からのアクセスを良くしていただきたい。
- ・プール計画地の敷地が狭隘であるということも聞いている。少しでも敷地を広げ、エントランスの整備ができるよう県道整備をしていただきたい。

○事務局

- ・大江霊仙寺線の方からプール敷地に入るとは渋滞のもとになるので、敷地南側の県道の高さを下げることを予定している。車道の横の歩道が低い縦断であるが、イメージとしてはその歩道の縦断と同じ位に車道を下げていくという形で、プールに入るスロープをできるだけ低くするという工事を並行して行っていきたい。
- ・プールの敷地が狭隘ということであるが、現状の道路部分がある程度活かして建物を建てることも含めて、敷地に進入しやすいように検討していきたい。

●会長

- ・事業費については、他施設を参考にしながら計算されているのか。

○事務局

- ・事業費は、近年に整備されたプールを参考にしながら、物価上昇率も考慮して算定をしている。

●会長

- ・料金収入については、色々な資料等を参考にしながら検討されているが、草津市にはいくつか高校があり、中には非常にスポーツが強い学校もあることから、高校や中学校の利用も検討されているのか。

○事務局

- ・競技力向上の観点からも学生の利用を促進していきたいと考えている。料金収入の検討については、近隣の施設等を参考にしながら、大人と高校生の料金は少し差を付けて算定をしている。

●会長

- ・おそらく50mプールは10コースとなると思うが、これを稼働させていくことは大変である。いかにコースをフル回転させるとなると、競技者に3コース程度は使っていただかないと難しいのではないかと。例えば、高校生や中学生が利用するのは有効であるため、団体利用も考慮した料金設定を考えていかなければならない。

○事務局

- ・料金設定については、PFI事業者から提案があると思うが、専用利用の中で学生の枠を設けるといことも考えられる。

●会長

- ・おそらく中学校、高校とも喜んで使ってくれるのではないかと。事業者とどのように進めていくのが重要になってくる。周辺市の学校にも需要があるのではないかと。
- ・スポーツ協会の方では、今後、プールを使った事業を展開されていくようなことはあるのか。

●委員

- ・利用料金について、例えば体育館を利用される団体の中で、電気代を抑えるため電気を少なくし

て利用しているケースや、使用料を抑えるためマイク設備を使わないといったケースがある。中学生、高校生、大学生が団体利用する際の料金をどのように設定するのか、あるいは大会開催を市の協会、市の連盟でやるときに利用料を考慮していただけるのか。また、一つの団体が利用する時に維持管理費はどの程度なのか。

#### ○事務局

- ・PFI 事業者の提案も踏まえて利用料金を考えていくことになるが、団体や市民の利用を促進していくような方策を考えていきたい。そういった点について、引き続き相談をさせていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

#### ●会長

- ・ウォーキングを積極的に進めておられる団体として、今後、競泳プールを使って事業を拡大するといった検討はされているのか。

#### ●委員

- ・スポーツ推進としてウォーキングはやっているが、例えばプールで水中ウォーキングをやるといった体力づくりのようなことを考えていきたい。プール自体の事業ではなく、体力をつけるためにプールの中でトレーニングして筋力をつけていくといった取組も良いと思う。事業としては、他団体にも協力いただくことになるので、そういった土台作りとして利用したい。

#### ●会長

- ・収入増や大会招致について意見があれば伺いたい。

#### ●委員

- ・大会招致について、近畿ブロックや関西ブロックの大会は必ず招致できていると思っている。現在、マスターズの大会は、県立障害者福祉センターのプールで実施しているが、会場の規模を考慮して人数制限をしている。市立プールで開催できるのであれば、立地条件等から考えてかなり大きな大会ができる。
- ・また、競泳、水球、飛込の新たな大会を創設していきたいとも考えている。山口や和歌山では、新しくプールを作り大会を創設された際、従来 200 人規模であった大会が 2000～3000 人規模の大会になったとの事例もあり、その可能性は十分に秘めている。
- ・競泳の選手は、良いタイムを出すために少しでも条件が良い所を目指してやってくる。このプールは、立地や施設規模を考えると山口、和歌山を上回るような規模の大会ができるのではないかと考えている。連盟としても大会を創設して利用者増に寄与していきたい。
- ・もう 1 点提案したいのが、他自治体で実験されているが、市立の小学校、中学校、幼稚園、保育園それぞれのプールを、すべて集約して水泳の授業を実施することである。送迎の問題はあるが、例えば午前中の稼働は学校の授業に当て、プールの専門指導員が指導することでスキルの高い指導ができ、先生も時間が有効に使え、学校のプール維持管理費用も浮いてくるのではないかと考えている。温水プールなので冬場の水泳授業もできて、雨や風など気象条件に影響されないため、年間を通じて予定を組むことができる。草津市でも検討されてはどうか。

## ○事務局

- ・市議会や市内部からも、せっかく作る以上は良いプールを作ってほしいといった声が出ており、記録の出やすい高速プールを目指していくことも考えられる。
- ・提案いただいた学校プールの集約については、教育委員会が決めることであるが、将来的には学校プールの改修費用に対する効果検証も含めて検討していくことである。夏場は熱中症問題もあり、市立プールや民間スイミングスクールなどで水泳の授業をされる事例もあるので、教育委員会にも情報を伝えていきたい。

## ●委員

- ・PFI 事業を実施するにあたって、スケジュールが非常にタイトであるので、今後も県と市の連携を密にさせていただいて、スケジュールが滞ることなく、きちんと管理して進行していただきたい。
- ・プールは、体育館等と比べて専門性の高い施設であり、これからのアドバイザー一選定や事業者選定が非常に大事になってくる。また、ランニングコストが掛かる施設であるため、学生や高齢者をはじめ、スポーツ人口をいかに喚起し、幅広く需要を確保していくということが大切であると考えられる。

## ●会長

- ・競泳に限らず水球、アーティスティックスイミング、飛込でどれだけ全国から人を呼んでこられるのかといったところも非常に重要である。飛込については、通年利用できる貴重な施設となる。近隣にはホテルがあり、合宿地として飛込プールを使っていたりすることも視野に入れ、今後PFIを進めていく中で事業者から提案をしていただくことも重要である。イベントなど地域の方々への事業提案を確保するなど、高齢社会における健康増進の視点も含めた検討が必要である。隣に新しくできる体育館の利用も重要である。

## ●委員

- ・全国から来る選手に喜んで泳いでいただけるよう、すべての部分でできるだけ良いものを取り入れていただきたい。想定外の事が起こったといわれるようなプールでは困る。できるなら滋賀県内で4ヶ所くらい県営の室内プールができたらいと思っている。そこで、小中学生が学校教育で年間を通して使えるプールにされたら良い。絶対他に負けないような設備のプールを作してほしい。できれば年間を通じて利用できるよう、教育委員会のチャーターしたバスで年間計画的に運営されて、このプールがずっと使われるようにしていただきたい。
- ・大会後にどのように利用していくかも重要なので、草津市、栗東市、守山市、野洲市の4市が同じ立場で利用できるよう考えてもらえないか。年をとっても健康でいられるよう、小学生の利用を促進するなど、市の方でも思い切ったことを考えてほしい。

### (3) 今後のスケジュール案について（資料4）

#### ○事務局

<資料4について説明>

#### ●意見なし

### (4) 意見交換

#### ●委員

- ・プールには監視しにくい場所があり、子どもが入ってしまうような隙間もあるので、安全面についても考えていただくようお願いしたい。

#### ●会長

- ・大学プールでも一般開放時間を設けており、必ず救命救急のスタッフ2名を配置している。学生から利用料金を取り、救命救急の方々の人件費としている。滋賀県もいくつか水難事故が起きているので、こういった安全管理というのが大事になると思う。

#### ●委員

- ・先日のアジア競技大会の水泳競技は、金メダルをたくさん取るなど良い選手が出ていただいて良かった。立派なプールができることで、草津からも立派な選手が出ていただけることを切に望んでいる。皆さんに喜んでいただける場所であるといいなと思っている。

#### ●委員

- ・健康スポーツや学校教育の利用については、競技大会の利用状況も踏まえどのように調整していくのが課題である。今後のPFI事業者による管理運営の中で、こういった事も含めて検討していただきたい。

#### ●委員

- ・民間の温水プールやスイミングスクールが結構流行っており、競技スポーツだけでなく、そういう利用の対象でもあるということを考えていただけたらと思う。

#### ●委員

- ・他のプールでは、床が温かい施設であったり、大会が開催されるような施設であっても駅からシャトルバスがない場合もある。今回、整備されるプールは、若い方もマスターズの方にも利用されるような温かい雰囲気の施設にしていきたい。

#### ●会長

- ・これだけ駅に近い大きなプールというのは、全国でどれくらいあるのか。



●委員

- ・新幹線のぞみの停車駅からの距離やアクセスを考えると、日本有数のアクセスの良さであることは確かだと思う。

●委員

- ・県内の競技者は、基本的に 25m プールで練習しているが、長水路の試合が近づくと長水路での練習を望んでおられて、わざわざ京都や大阪のプールまで練習に行っている。今回、長水路のプールができることを競技者はすごく楽しみにしているので、喜んで練習に行くと思う。

●委員

- ・整備手法はPFIで決まりなのか。PFIの欠点として、契約してしまうと市民の意見が反映されにくいという部分がある。業者の考えだけで進んでいくようなことのないよう、市民の意見が反映されるような仕組みづくり、あるいは契約の内容を検討いただきたい。

●会長

- ・懇話会には多くの団体の方々に参加していただき、意見をいただいている。PFI事業を進めていく上で、滋賀県あるいは草津市の特性や特徴を踏まえ、市民や団体の意見を確認していけるような仕組みがあっても良いのではないかと。恐らく選定委員はPFI事業者と会っていけないので、PFIでそれができるかどうか分からないが、事業者だけが事業を進めるのではなく、市民の意見を求めていくような仕組みづくりが大事になってくると思う。高齢化が進んでいく中で、健康の意識を持つ方々の意見も取り入れる仕組みを作っていただきたい。

○事務局

- ・より良い施設を作るため他施設の視察を行っている、やはり不足している機能等があるといった意見も聞いている。これまでの懇話会で、例えばトイレの1室を車いすが入れるスペースがあるだけで身体障害者の方が利用しやすくなるといった意見をいただいたが、障害者スポーツ大会を開催する施設を作るため、そういった事も出来る限り設計に反映していきたいと考えている。懇話会は最終回であるが、競技団体の方とお知り合いになれたので、今後、事業者と一緒にご意見やアドバイスをいただく機会を作っていきたいと考えている。よろしく願いたい。

●会長

- ・滋賀県は、新県立体育館の整備でPFI方式を採用されているが、まだまだ未熟なところもあるかと思うので、他施設の事例を参考にしながら、また住民の方々の意見を反映できるようにしていただきたい。

### 3. 閉会

---

#### ○橋川市長 挨拶

委員の皆様におかれましては、4回にわたる懇話会において貴重なご意見を賜りありがとうございます。プール整備の第一歩となる基本計画の素案をまとめることができ、感謝を申し上げます。このプールは、2024年開催予定の滋賀県の国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会に向けて整備を進めてまいります。できれば前年4月にオープンすることを考えていましたが、滋賀県の意向もありPFI方式を採用することとしたので、2023年8月オープンに向けて取り組んでまいります。また、大会後のプールの活用が大変重要であると考えており、駅に近いという利便性を活かしながら、全国規模の大会の誘致や立命館大学とのタイアップも含めた大学スポーツの拠点にしていきたいと考えております。滋賀県出身の大橋選手がアジア大会でも活躍されたが、全国あるいは世界で活躍されるような選手の育成の場としても活用してまいりたいと考えています。そして、草津市は「健幸都市宣言」を行っており、滋賀県も「健康しが」の取組を進めておられることから、市民・県民の健康づくりの場として活用できるよう施設整備や運営をしてまいりたいと考えております。今後とも、委員の皆様には、それぞれの立場からお力を賜りますようお願い申し上げます、お礼の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

#### ○草津市プール整備事業推進室 生田室長 挨拶

計画案にかかるパブリックコメントを10月1日から募集します。皆様には、所属団体や関係者の方々にも周知いただきますようお願いいたします。今後も色々な形でご意見、ご支援をいただきますようお願いいたします。ありがとうございました。

以上